

# 取組の柱②：インド太平洋流の課題対処

## 事例⑬：ブルーオーシャン・ビジョン

### 1. 基本的な考え方

●世界的に増え続ける海洋プラスチック汚染への対策は待ったなし。  
日本は2019年G20大阪サミットで大阪・ブルー・オーシャン・ビジョンを提唱以来、積極的に議論・対策をリード。

●昨年末に開始したプラスチック汚染対策に係る条約策定に向けた国際交渉においても、大量消費国・排出国を含む多くの国が参画する効果的かつ進歩的な条約作成を主導する。

⇒ 海洋プラスチック汚染をなくすべく、製造から廃棄・リサイクルまでのプラスチック資源循環を実現する社会インフラ整備支援や科学的知見の集約・共有を行い、インド太平洋の綺麗な海と豊かな資源を保護。

### 2. 具体的な取組

●海洋プラスチックモニタリング協力

(例) マイクロプラスチック (MP)・モニタリング調和ガイドラインの活用 (2019年策定、以降継続的に改訂)、モニタリング東南アジア研修 (2016年より継続的実施)、MP国際モニタリングデータベース構築

●ASEAN+3を中心とする海洋プラスチックごみに関する知見集約

(例) 海洋プラスチックごみに関する地域ナレッジセンター (ERIA)

●ASEAN地域における海洋ごみ削減対策支援 (JAIF)

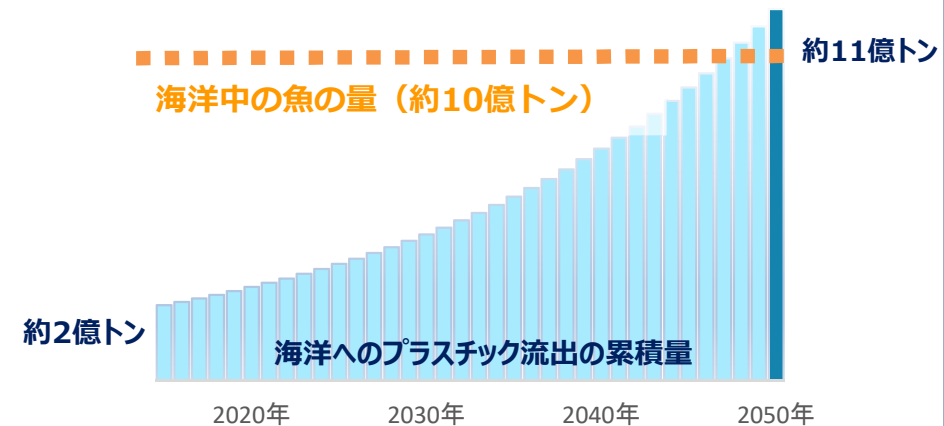
(国別行動計画、地方自治体の能力開発、テレビ番組作成による啓蒙等)

●廃棄物管理、海洋ごみの回収、イノベーション、能力強化支援 (MARINE Initiative)

(例：環境インフラ支援、廃棄物管理に関する人材育成等)

### 増え続ける海洋へのプラスチック流出

このまま海洋へのプラスチックの流出が続くと、2050年には、海洋へのプラスチックの流出の累積量が海洋中の魚の総重量より多くなるとの試算も

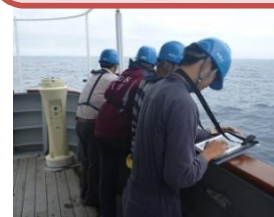


【Jambeck et al. (2015, Science) 等での推計に用いられた仮定】

●プラスチックの生産量が、毎年5%増加すると仮定

●生産量(2015年は3.22億トン)の約3%が海に流出と仮定

### 科学的知見の集約



モニタリング・ガイドラインの作成、データベース構築等



PETからPETへ  
100%リサイクル

### 技術・キャパビル支援

パッカー車の輸出を含む  
廃棄物処理制度の高度化支援 他

